

大藤地区鳥獣害対策委員会を中心とした地域ぐるみの鳥獣被害防止対策 (山梨県甲州市)

- 平成25年に地元農家、猟友会、農協がメンバーの中心となって大藤地区有害獣防護柵設置委員会を設立
- 令和3年現在、同委員会は地域の農家、猟友会、農協職員など計11名で構成され、ボランティアとして任期なしで活動を行っており、そのうち10名が狩猟免許を取得
- 主な活動として、囲い罠、カラス罠の管理や獣害対策の検討、獣害対策の先進団体への研修、春と秋の強化週間には「掃討作戦」として大藤地区内のシカ・イノシシの駆除並びに防除施設の設置と修理等の管理を実施
- 秋の強化週間後の11月～翌年3月には「カラスのおとり罠」での駆除を実施し、毎年200羽以上のカラスの捕獲を行うなど、市・農協・地域の農家の三位一体で取り組み、被害軽減に貢献

取組内容

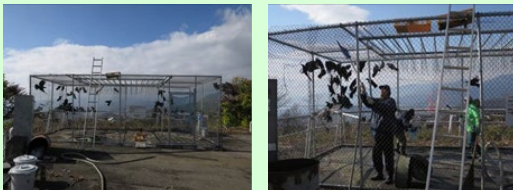
○ 大型獣用囲い罠の管理

- ① センサーの設置・設定、草刈などの管理等を委員が実施
- ② 捕獲獣は、猟友会会員の委員が、その場で処理
- ③ 罠が破損した場合は、会員が修理。市は、網等の資材費を一部助成



○ カラス罠の管理

- ① おとりカラス、えさの用意、処分、清掃等を委員が実施
- ② 餌の一部については、週2回、市内給食センターが残飯を提供



○ 鳥獣被害防止対策の先進地研修の実施

成果

- 大型獣用囲い罠・カラス罠の管理を地域の農家が主体となり実施することで、捕獲への地域住民の理解が得られ、カラス被害の減少などの効果が現れることで、事業が継続しており、地域からも高評価を受けている
- 資金を積み立て、大藤地区鳥獣害対策委員会が2年に1度開催している鳥獣被害防止対策の先進地研修を、今後も引き続き行うなど、活動を継続

捕獲実績	鹿・猪(頭)	カラス類(羽)
平成29年度	27	330
平成30年度	65	372
平成31年度	40	295
令和2年度	55	320
令和3年度	29	301

大藤地区鳥獣害対策委員会を中心とした地域ぐるみの鳥獣被害防止対策(山梨県甲州市)

きっかけ・背景

- モモ等の果樹へのカラス等による食害を危惧し、甲州市塩山大藤地区の農家が中心となって、地元の猟友会や農協と連携して取組を開始

課題

- カラスの捕獲については、他市町村での捕獲活動の衰退等により、おとりカラスの確保が困難
- 住民の理解を深めるとともに、活動の輪を市内他地区や市外へ拡大させること

Step1 カラス罠の管理

(H25～)

- 農協の補助金等を活用して設置されていたカラス罠を平成25年より大藤地区獣害対策委員会の委員が中心となって管理
- ① おとりカラス、えさ、処分、清掃等は全て委員が実施
- ② 餌の一部として市内給食センターの残飯を週2回譲受

Step2 大藤囲い罠の管理

(H25～)

- 平成25年に設置された大型獣用囲い罠を大藤地区獣害対策委員会の委員が中心となって管理
- ① センサーの設置・設定、草刈などの管理等を委員が実施
- ② 捕獲獣は、猟友会会員の委員がその場で処理
- ③ 罠が破損した場合は、会員が修理。市は、網等の資材費を一部助成

鳥獣被害防止

地域挙げて対策

山梨県大藤地区獣害対策委員会



農の風景

第4部の風景

防護柵は総延長5.3km

住民結束 集落を囲う

捕獲実績	鹿・猪(頭)	カラス類(羽)
平成29年度	27	330
平成30年度	65	372
平成31年度	40	295
令和2年度	55	320
令和3年度	29	301

Step3 地域としての取組

(H25～)

- 年2回程度実施する掃討作戦で、集中的な駆除
- 委員会メンバーが新規で罠免許取得
- 若い猟師の育成のため、狩猟に係る費用を負担
- 大藤地区鳥獣害対策委員会による積極的な研修、技術向上に向けた情報交換の実施
- 住民の罠の管理や地域行事でのジビエの試食等への参加促進により対策への理解が深化
- 共同防護柵の修繕

取組の特色

- 現在は、農家が主体となって活動しているが、地元の猟友会や農協との連携により、地域ぐるみでの取組が可能に
- 活動の結果、カラス被害が減ったことや、地域行事に参加してジビエの試食を行い、啓発活動を実施したことにより、住民理解を深めている。
- 大藤地区鳥獣害対策委員会が鳥獣被害防止対策の先進地研修を2年に1度行い、地元住民の技術の習得や情報収集、資質向上を企図

取組による成果・効果

- 大型獣用囲い罠・カラス罠の管理を地元農家が主体となり実施することで、捕獲への地域の理解が得られ、継続的な対策の成功のカギに
- 当初は、カラスを集めて・・・とカラス罠に対し、地域住民から迷惑施設との印象があったが、カラス被害の減少などの効果が現れるにつれ、地域からも高評価に
- 活動について、メディアの取材や他市町村からの視察が増え、活動の輪は市内の他地区や市外へと拡大